

# AAR News

コロナによる一時帰国から  
再赴任まで

1

NO. 471  
Jan. 2021



AARが設置した給水タンクで手を洗う子どもたち（ウガンダ、8月）

2020年2月以降、全世界で新型コロナウイルス感染症が拡大し、AARは活動する7カ国で、派遣していた駐在員の一時帰国を決定しました。これにより17名の駐在員が日本に戻り、遠隔で事業を進めることとなりました。10月ころからは感染状況が落ち着いた国も増え、AARは各事業地の感染状況や医療体制、移動規制などを注視しながら、駐在員の再赴任の準備を進めました。2020年12月現在、ウガンダやバングラデシュなどの駐在員が現地に戻り、活動を再開しています。一時帰国から再赴任までの「活動の裏側」を、ウガンダ・ユンベ事務所の宮崎充正がご報告します。（次ページに続く）

## 謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年は新型コロナウイルス一色の一年となりました。40年以上にわたって国内外で活動してきた私たち難民を助ける会にとっても、これほど影響が広範囲に及ぶ世界的危機は初めての経験です。

AARは衛生用品の配布や生計向上など、各地の状況にあわせ様々なコロナ対策に取り組んでおりますが、これらはすべて、皆さまからの温かいご寄付に支えられ、可能になったものです。皆さまご自身がコロナ禍での生活を強いられる中、まさに「困ったときはお互いさま」の精神をお示しいただき、改めまして、深く御礼申し上げます。

感染拡大を受けて一時帰国していた駐在員たちが、状況が落ち着いたところから現場に戻り始めています。その際には、日本各地からお寄せいただいた石けんや、応募いただいたコロナ啓発ポスターを持ち帰っています。皆さまからお預かりした温かいお気持ちとともに、支えを必要としている方々にお届けします。

本年が、皆さまお一人おひとりにとりまして、健やかな年となりますことを、心から祈念いたします。



## コロナによる一時帰国から再赴任まで



学校に掲示したポスターの前で（インヴェビ難民居住地、12月9日）

## 帰国して感じた葛藤

AARは2016年からウガンダで教育支援を行っています。隣国の南スーダンの紛争から逃れて難民居住地に暮らす難民および受け入れ地域の子どもたちに加えて、2020年4月からは、コンゴ民主共和国からの難民と受け入れ地域の子どもたちへの教育支援も開始しました。しかし、ウガンダ国内でも新型コロナウイルスの影響が拡大、都市部のロックダウンと移動制限が政府から発令されました。

私たち4名のウガンダ駐在員は慌ただしく日本に帰国しました。国境閉鎖宣言の発令から実際の閉鎖までの期間が極端に短く、帰国に伴う様々な調整を大急ぎで進める必要がありました。身の整理も気持ちの整理もままならないまま、気付けば臨時便の飛行機に乗っていました。

日本から遠隔での業務は、思っていたよりもスムーズに進めることができました。もちろん時差による不便などはありましたが、もどかしさはあまり感じませんでした。それは現地スタッフの努力によるところが大きいのだと思います。ただ、「自分は日本に帰ってきてよかったのか」という葛藤は常に感じていました。こういう非常事態の時にこそ脆弱な人々に寄り添うのがAARなのではないのか、と。しかし、ウガンダでの感染状況が今後どうなるかわからない状況では、何が正解だったのかは誰にもわかりませんでした。

一時帰国前の障がいスポーツイベントで



## 二つの変化

ウガンダでは爆発的な感染拡大が起こらず、現地の移動規制も徐々に解除されてきたことから、11月にウガンダに戻ることにになりました。飛行機から降りて、「帰ってきたな」と感じました。雨季のウガンダ特有の、雨を吸い込んだ地面から水分が蒸発する時の匂いで、気持ちが一気にウガンダモードに切り替わりました。ステイホームの雰囲気が続く日本よりも、ウガンダでの環境の方が私には合っているのだと思います。海外駐在員の醍醐味であるダイレクトな感触を、もう一度現場で感じられるようになりました。

再赴任後に実施した活動の一つに、ラジオ放送を通じた教育支援があります。元々は難民居住地内で演劇クラブと障がい学習クラブを立ち上げ、子どもたちが学習の成果を地域の人々の前で発表する予定でした。しかし大人数が集まるイベントが禁止となり、急きょラジオで発表することになりました。生徒たちは緊張しながらも積極的に参加し、多様性を受け入れることの大切さや、障がいの有無によって分け隔てられることのない社会の重要性を学んだ、という意見を聞くことができました。

ウガンダに戻ってきて気付いた嬉しい変化が二つあります。一つは現地のスタッフが大きく成長していたことです。多くのスタッフが主体性を持って事業を進めてくれるようになっていました。もう一つは、子どもたちが積極的に活動に参加するようになっていたことです。ただし、これは、休校が長く続いていることへの反動と言えるのかもしれません。休校中の子どもたちは労働力として見なされ、農作業や井戸の水汲みの手伝いをするようになります。AARの活動に生き生きと参加する子どもたちを見ると、コロナによって教育の機会が奪われてはならない、と強く感じます。子どもたちの教育環境が一日も早く元の状況に戻るよう、ここウガンダで活動を進めてまいります。



ウガンダ・ユンベ事務所 宮崎 充正

2019年10月よりウガンダ事務所に駐在。大学を卒業後、青年海外協力隊員の理科教員としてマラウイ共和国に赴任。任期終了後、英国の大学院で教育開発学修士を取得したのちにAARへ。徳島県出身

## お寄せいただいた石けんを難民キャンプで配布

新型コロナ対策として、AARが募金とあわせて呼びかけた「石けんキャンペーン」。日本各地から多くの石けんがご寄付とともに寄せられました。感染拡大を受けて一時帰国していた駐在員がそれぞれの事業国に戻りつつあり、持ち帰った石けんを現地で配布しています。ウガンダでは南スーダン難民の障がい児とその兄弟姉妹に、家庭学習用教材、ノート、鉛筆・ペンとともに石けんをお届けしました。配布した石けんの一部は、大妻中野中学校・高等学校の高校生の皆さんが手作りしたもので、石けんと文房具を受け取った4年生の女の子は「日本の高校生が作ってくれたんですか！ありがとうございます。ちゃんと手を洗って、たくさん勉強したいです」と笑顔を見せてくれました。

バングラデシュでは、ロヒンギャ難民の難民キャンプ内でAARが運営する、子どものためのチャイルド・フレンドリースペース、女性のためのウーマン・フレンドリースペースの会合出席者とボランティア職員に石けんを配布しました。AARはコロナ感染の影響を受ける世界各地の難民の命と健康を守る活動に引き続き取り組んでまいります。

\*石けんの募集は終了しています。



AAR駐在員の藤田綾（前列中央）から受け取った石けんを手に笑顔を見せる子どもたち（ウガンダ、11月16日）



協力団体のボランティア（左）に手作り石けんを渡すAAR駐在員の町村美紗（右）（バングラデシュ、11月25日）

## ポスターを難民キャンプに掲示、東京では展示会

AARは、難民・避難民に新型コロナウイルスの危険性や正しい理解を幅広く伝えるため、2020年8月から10月にかけて啓発ポスターデザインを公募しました。国内外6カ国から156点もの作品が寄せられ、最優秀1作品、優秀9作品など、計31作品が受賞作品として選ばれました。ウガンダやトルコなどの難民キャンプや難民居住地に掲示されています。バングラデシュではテクナフ郡の難民キャンプ周辺の受け入れ地域でボランティアによる月経衛生啓発セッションを行った際に、会場にポスターを掲示しました。参加した女子生徒たちには、表紙に作品のイラストが印刷されたノートを配布しました。

また、12月1日から26日まで「ギャラリーてん」（東京都港区）で、応募作品の展示会を開催しました。154点の作品が展示され、期間中は応募者のご家族や一般の方など、多くの方が来場して作品を鑑賞されました。12月1日と5日には同ギャラリーで受賞者の表彰式を開催し、映像配信サービスを使って生配信を行いました。優秀賞を受賞した富永康太さんは表彰状を受け取り、「明るい未来が早く来るように、との願いを込めた。絵を描くために難民支援について勉強したのがいい機会になった」と話されました。



受け入れ地域の小売店にポスターを掲示する協力団体のスタッフ（バングラデシュ、11月29日）



優秀賞を受賞し、AAR会長の柳瀬房子から表彰状を受け取る澤木拓瑠さん（左）（ギャラリーてん、12月1日）

## 東西トーザイ tozaitohzai

### 御礼

#### デヴィ・スカルノ夫人より200万円のご寄付

デヴィ・スカルノ夫人が主宰するNPO 法人アースエイドソサエティはこのたび、「人道支援活動に役立ててほしい」とAARに200万円をご寄付くださいました。東京都内で10月24日に開かれたチャリティパーティで集まったご寄付をお寄せいただいたもので、AAR会長の柳瀬房子から11月11日、デヴィ夫人に感謝状をお贈りしました。デヴィ夫人は長年にわたってAARを応援してくださっています。



会長柳瀬房子(右)から感謝状を受け取るデヴィ夫人

#### パルシステム東京より5年目のご寄付

生活協同組合パルシステム東京では、紛争などで苦しむ子どもたちを支援する平和カンパを組合員の方々から募っています。今年度は、1,670,671円をAARがトルコで行うシリア難民支援に



オンラインで実施したトルコ語教室

とお寄せくださいました。11月25日には贈呈式を行い、AAR東京事務局の坂上佐和子が平和カンパにより実施しているトルコ語の学習支援についてご報告しました。同組合の皆さまより、「語学の習得はトルコで生活するシリア難民が直面する課題の解決に欠かせない。活動の意義がよくわかる」といったお言葉をいただきました。

#### トルコ沖地震被災者支援へのご協力ありがとうございました

10月にトルコ沖のエーゲ海で発生した大地震の被災者支援に、たくさんの個人、企業、団体の皆さまよりご寄付をお寄せいただきました。心より御礼申し上げます。個人情報に配慮し、企業・団体のみをご紹介します。

- 一般社団法人大槌新聞社(岩手県上閉伊郡)
- 特定非営利活動法人桜ライン311(岩手県陸前高田市)
- 一般社団法人全日本難聴者・中途失聴者団体連合会(東京都新宿区)
- 株式会社ミリオンインターナショナル(東京都練馬区)

12月15日時点、50音順

#### 人事往来 Personnel

<退職> 2020年12月12日 カンボジア事務所 松島 拓  
2020年12月25日 トルコ事務所 山下 瑛梨奈



#### 特定非営利活動法人 難民を助ける会

〒141-0021 東京都品川区上大崎2-12-2 ミズホビル7F  
Tel.03-5423-4511 Fax.03-5423-4450  
www.aarjapan.gr.jp

\*ご寄付は、寄付金控除の対象になります

### ご案内

お申し込みはAARのホームページから、または東京事務局までお電話ください(03-5423-4511)

#### 2/27(土) オンライン開催 震災から10年 東日本大震災被災者支援 活動報告会

AARは東日本大震災の発生直後から被災者の方々への支援を実施し、現在も支援を継続しています。これまでの10年を振り返り、その中で見えた被災者の方々の変化と、今後求められる支援をご報告します。

日時: 2021年2月27日(土) 午後  
参加費: 一般1,000円/学生500円  
参加方法: ZOOMを利用します。お申し込みいただいた方へ、参加に必要なURLなどをご連絡します。

#### 3/7(日) チャリティコンサート ベートーベンの弦楽四重奏

ヴァイオリン奏者の岩田恵子氏率いるカルテットをお招きするコンサート。コンサートの純益は難民支援などAARの活動に充てられます。詳細は同封のチラシをご覧ください。

日時: 2021年3月7日(日)14:00開演(13:30開場)  
会場: 銀座・王子ホール(東京都中央区銀座4-7-5)  
料金: 全席指定4,000円(税込)

### 新・事務局員はこんな人

「支援の輪を広げていきたい」

千ヶ崎 陽子(ちがさき ようこ)



10月より東京事務所で支援者サービスを担当。旅行会社に勤務していた間に途上国を含む多くの国を訪れ、国際協力に関心を持つ。数年前にAAR理事長の長による講演を聞いて感銘を受け、AARの支援者となり、また、国際協力の仕事

に携わりたいと思うように。前職では国際協力団体でファンドレイザーを務めた。困っている人を助けるのに理由は必要ないという姿勢と、国内外での支援活動のバランスの良さに惹かれてAARへ。「支援者の皆さまにはご寄付だけでなく励ましのメッセージや元気もいただいています。自分自身が支援者として感じていたことを活かして、支援の輪を広げていきたい」。趣味はテニス。埼玉県出身

助成金一大切にに使わせていただきます

#### 外務省NGO連携無償資金協力より

- アフガニスタン「パルワーン州バグラム郡およびジャブルサラジ郡におけるインクルーシブ教育推進事業(第1期)」に 38,809,049円(2020/10/16~2021/10/15)
- アフガニスタン「地域の社会資源を活用した持続可能な爆発物リスク回避教育事業(第1期)」に 45,932,867円(2020/11/2~2021/11/1)

公益社団法人日本フィランソロピー協会の「フィランソロピーバンク」を通じて、「5」のつく日。JCBで復興支援から

- 「熊本県における被災障がい福祉事業所への運営再開に向けた設備整備支援」に 3,000,000円(2020/11/1~2021/4/30)

#### バレンタインにはAARのチャリティチョコレートを

毎年好評のミルクとホワイトチョコに、抹茶とモカが仲間入り。新装した箱で4つの味をお楽しみください。(各1枚計4枚入り600円・税込)。ご注文はお電話/FAX/ホームページで。

